館林城の
再建をめざす会

“よみがえる館林城下町”

| | |
|---|---|
| 次号予告 | 次号(4号)の特集<br>**大名小路・裏宿**　大名小路を町名に使っていた事実！　2020年10月発行予定<br>いかに価値ある城下町であったかの証明となる町＝大名小路。武家地・裏宿も併せて紹介！ |
| 編集後記 | 館林城下町だより第3号は生まれ育った町の特集。<br>昭和30年代(小学生時代)の記憶がそのまま町の記憶となっている。<br>三の丸、壕、土塁、土塀、侍屋敷、屋敷門・・・・色濃く残る城下町の佇まい。<br>多くの情報を伝えたくて誌面を倍増(16ページ)、内容の濃い特集となった。<br>発行予定(2月)は新型コロナのため2カ月延期！　終息はいまだ見えてません。(4/19)<br>令和2年4月　館林城の再建をめざす会・会長　田中茂雄 |


「館林城下町だより」
～3号～
特集 鷹匠町

編　集：館林城の再建をめざす会
発行日：2020年4月30日
発行者：田中茂雄
発　行：昇文館
(祖父が神田表猿楽町にて明治44年創業)
〒374-0037 館林市小桑原町855-1 優風館


［無料配布］　ご寄付は喜んでお受けします。冊子制作費にかなりの費用がかかってます。　館林城の再建をめざす会・田中

Letter from Tatebayashi CastleTown

# 館林城下町だより

2020 4月 3号

特集：鷹匠町
(鷹匠町・代官町)

伊藤若冲(二条城襖絵より)

上野國館林藩

# 鷹匠町

Takajoumachi

## 城下町の面影をのこす町・鷹匠町（たかじょうまち）
## 素晴らしい町名を復活すべし。

関東でも有数の城下町である館林。いまでも城下町の風情が残る・・・それが鷹匠町。
鷹狩りを奨励し自らも好んだ家康公。その腹心であった榊原康政も主君にならい鷹狩りに励み
城内に鷹匠を住まわせたのだろう。その地は三ノ丸に隣接し、城沼を望む南に開けた
風光明媚な武家地である。藩の上士が暮らした侍町だ。
私は昭和26年鷹匠町で生まれ育った。
今でも鷹匠町に深い愛着がある。

### ［鷹匠町の由来］

鷹匠が居住していたから鷹匠町。
（「館林実記」（1728年）に鷹部屋屋敷の記述あり）
館林藩主綱吉は五代将軍になると
生類憐れみの令を断行する。
そして鷹狩りを禁じた。
復活したのは八代将軍吉宗。

### ［代官町について］

館林にふたつの代官町があった。
鷹匠町の北に隣接する代官町と
城下町北部に位置する代官町だ。
明治になると城内の代官町は
鷹匠町と大名小路に吸収され
代官町はひとつになった。

「江戸名勝図会・広重筆」
国立国会図書館蔵より

## 鷹匠町の変遷　榊原康政から始まる鷹匠町

天正18年(1590)、城下町の建設が始まった。

### 江戸時代

延宝6年(1678)

※網吉時代「館林御城図」(国立国会図書館蔵)より

### 鷹匠町人物誌

出典
「館林人物誌」「館林郷土史事典」より

**岡谷瑳磨介**(おかのや さまのすけ)

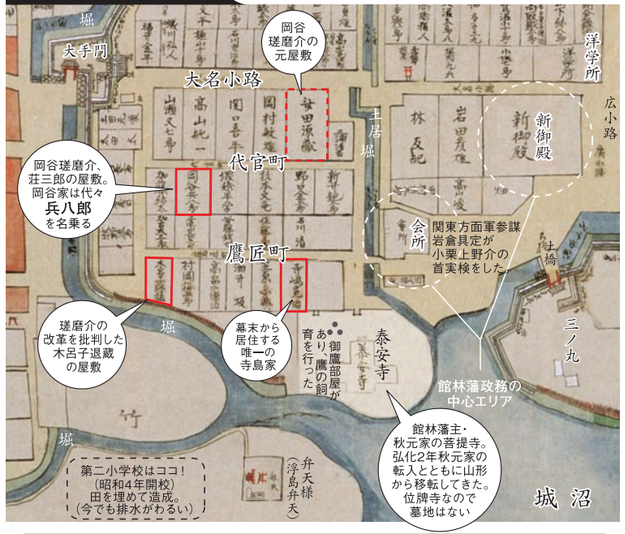
(文化4～慶応元年)諱は勝益。館林藩家老で安政の改革を推進。殖産興業・教育改革を断行。長澤理玄の種痘に協力し、実子4人に接種。姉は「お国替絵巻」の山田音羽。墓は法輪寺

**石川直幹**(いしかわ なおもと)

(文化元～明治9年)岡谷瑳磨介の兄。岡谷家から石川家へ。幼き頃より文学を好む。国学者として有名。山形の種痘碑は直幹の撰文と書である。晩年は甲子雄と称した。墓は円教寺

秋元時代(1845～68)

※「館林城絵図」(旧進藤家蔵)より。この絵図は明治になって描かれたもの




**徳川四天王・榊原康政が築城した館林城は強固な戦国の城!**

それは「御蔵」曲輪の存在でよくわかる。(水運の利便性もある)
戦国武将は兵站(補給/ロジスティクス)を重視しその運用に長けていた。
絵図をみれば蔵や武具の管理役職が鷹匠町に居住し、御蔵を囲むように上士の屋敷が並んでいる。戦がなくなり徳川の平和が続く時代に再建された館林城(越智松平家～秋元家)は「御蔵」曲輪がなく「三ノ丸」だけになった。

**幕末・戊辰戦争時、歴史の舞台に登場した鷹匠町エリア。**

**小栗上野介**(忠順)
慶応4年、忠順は倉渕村(現高崎市)で捕らえられ斬首された。首実験のため館林へ首級が届けられた。

**岩倉具定**(岩倉具視の息子)
戊辰戦争時、東山道鎮撫総督に任じられた岩倉具定は館林に滞在した。滞在中に小栗忠順の首実検を行った。

**西郷頼母**(たのも)
会津藩家老・西郷頼母は戊辰戦争で箱館で捕られ館林藩へ館林藩預け置きとなった。(鷹匠町)



### 明治/大正

↑1860年ワシントン滞在中に撮影

**岡谷荘三郎**(おかのや しょうざぶろう)

(天保3～明治21年)父は瑳磨介。叔母は山田音羽。末弟が南條新六郎。
開明派の父の努力で万延元年(1860)遣米使節団の一員となる。ワシントンで調印式後大西洋を越えアフリカ・インド洋を経由して帰国。館林藩初の世界一周を行った。

**木呂子退蔵**(きろこ たいぞう)

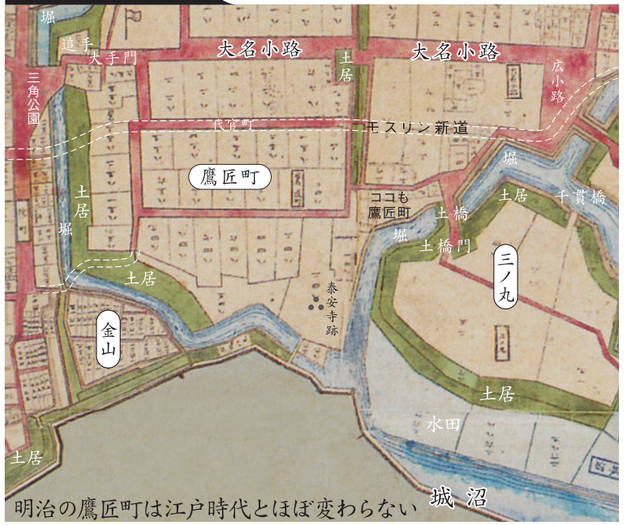
(文政10～明治33年)
幕末の世相を受け尊皇攘夷派となる。戊辰戦争では藩軍鑑として活躍。戦死者を祀る招魂社を建立。明治になり民権運動で名を成す。墓は円教寺

**南條新六郎**(なんじょうしんろくろう)

(嘉永元～大正9年)73歳
岡谷瑳磨介の三男(荘三郎の弟)。館林藩南條家へ養子となる。維新後、実業界で成功。明治10年、第四十国立銀行を創設しのちに頭取。日本製粉の創業者でもある。町長・熊谷直方と共に館林の発展に貢献した。墓は常光寺

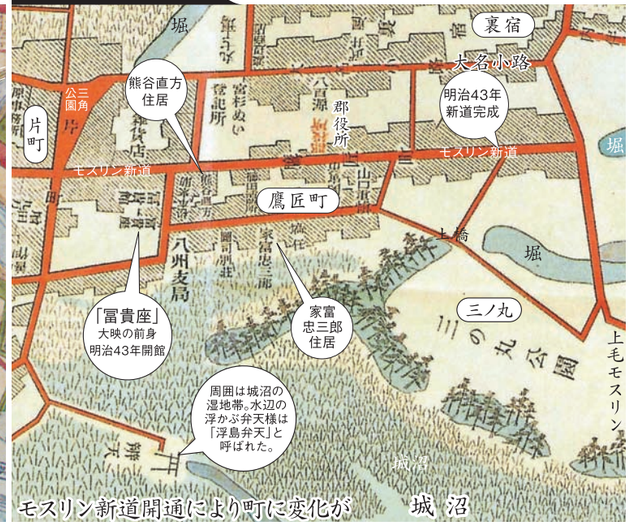
明治9年(1876)

※明治9年「館林町全図」より




大正3年(1914)

※大正3年発行「館林みやげ」地図より



←明治17年発行「陸軍迅速測図」より

[ロケーション]

舌状台地である城内の南西に位置する鷹匠町。南斜面を下ると城沼へ注ぐ鶴生田川の低湿地が広がる。対岸は松原村で桃畑などの果樹園。春には色鮮やかでのどかな風光を堪能できた。

**熊谷直方**(くまがいなおかた)

(嘉永4～大正12年)藩士・多賀谷家から熊谷家へ。明治10年館林町会ができると議長に選任。以後39年間、町長として町の発展を支え、明治40年東武鉄道開通に大きく貢献。墓は法輪寺

※町庁舎跡に銅像が建っていたが、現在は石碑が残るのみ

**家富忠三郎**(いえとみちゅうざぶろう)

渡良瀬村早川田出身。明治43年、二の丸に建設された上毛モスリン取締役兼支配人。千余名の従業員娯楽のため、劇場(冨貴座)を建てる。住まいも鷹匠町へ。その後、劇場は映画館・大映になる。

[上毛モスリン写真帳]より

鷹匠町の変遷

# 昭和の時代

## 「城沼耕地整理事業」大きく変わった鷹匠町

組合設立：大正15年9月
工事開始：大正15年12月
工事完了：昭和2年8月
総予算（概算）：3万5千円

※大正15年12月25日、大正天皇崩御。なので昭和元年はたったの1週間。

### 城下町/鷹匠町の景観ヒストリー

- **●明治7年** 大名小路から出火。住宅や櫓など城郭建築を焼失。館林城内が被災し旧藩士の住まいは半減した
- **●明治20年** 日光脇往還江戸口の枡形が撤去、直線道路となる。
- **●明治40年** 東武線が開通し館林駅ができる。停車場通り新設。当初は駅から往還までだけだった。
- **●明治43年** 4月 上毛モスリンが鞘町から二の丸に工場移転。整備によりモスリン新道が敷設。城下と繋がる。湿地帯であった鶴生田川（蛇行していた）流域整備、「城沼耕地整理事業」により大規模な区画整理完成。停車場通りを三ノ丸まで延伸した観光道路が完成。（※完成時は舗装でなく砂利道）
- **●昭和2年**
- **●昭和32年**



## 大正15年12月

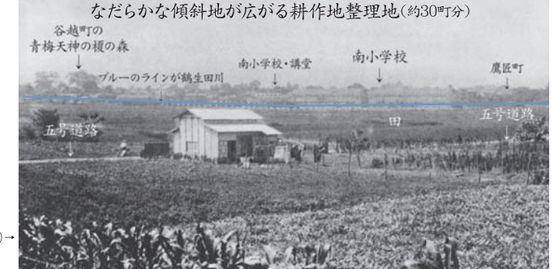
昭和元年は1週間なので昭和2年8月まで実質9カ月。

## 昭和2年8月

※図は昭和4年発行「城沼耕地整理完成記念図」より

地図（左）を見ると鶴生田川が複雑に蛇行している。
（大正15年まで、江戸時代と変わらない地形と町並みだった！）
整理事業の目的は川の蛇行で変形された湿地を整地し、
生産性の高い耕作地（田と畑）を生み出す事業である。
加えて人口増による小学校の新設であった。
湿地帯に道路（砂利道）を敷設するのが主な工事なので
工期は約9カ月と短い。日光脇往還を1号として
5号道路まで4本の主要道路（南北）が作られた。
これにより鷹匠町と対岸の松原村が繋がった。

### なだらかな傾斜地が広がる耕作地整理地（約30町分）

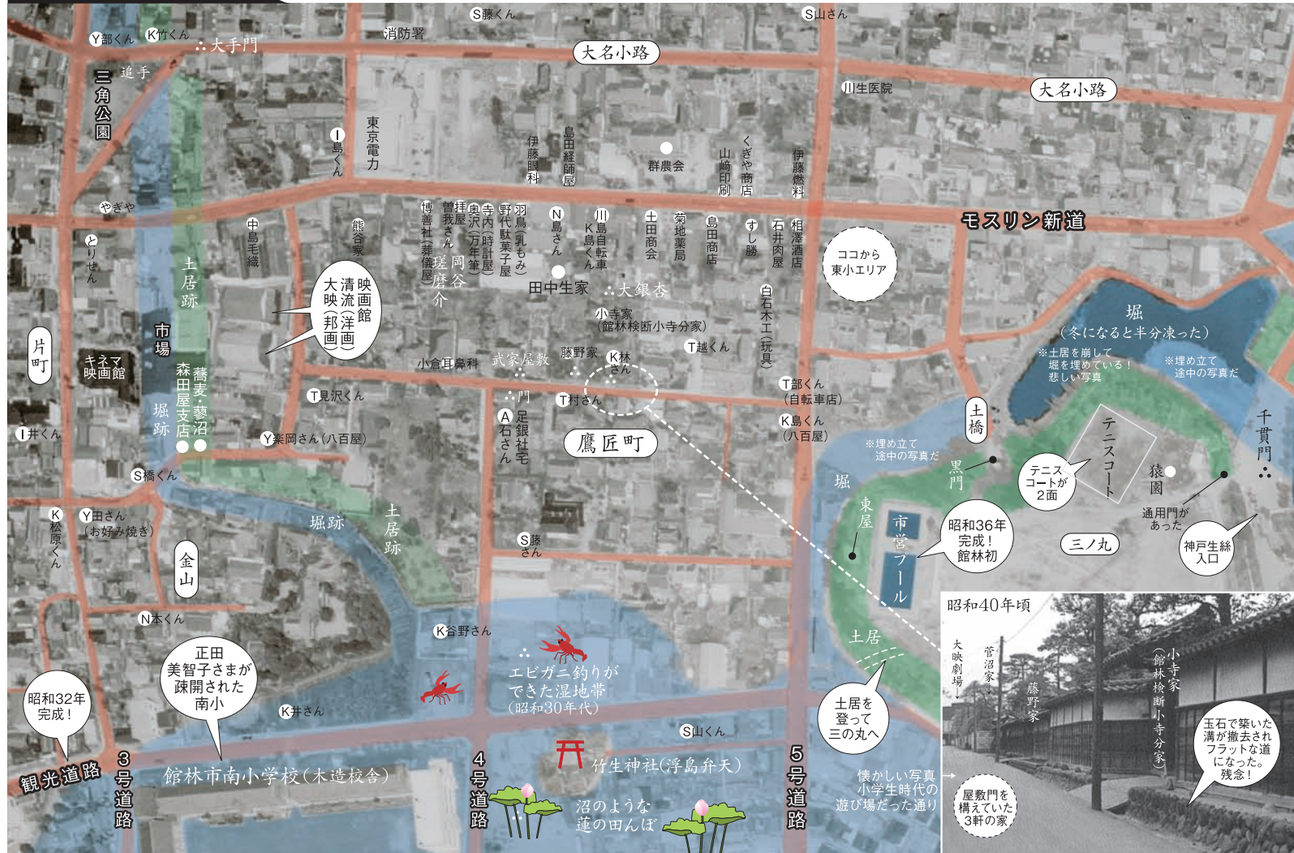



昭和5年7月撮影（川島維知・写真集館林より）→

## 昭和44年（1969）半世紀前の鷹匠町

昭和44年春の空撮（私は高3）、小学校の同級生の家を記憶を頼りにマッピングした。（間違っていたらごめんなさい）

写真：国土地理院撮影（1969年5月）をもとに館林城絵図を参考に着色した。（制作：田中茂雄）



# お散歩マップ

# 鷹匠町

Takajoumachi

昭和30年代の鷹匠町は
賑やかな城下町であった。
侍屋敷が並ぶ凜とした佇まい。
しかも映画館が2館あり
織物工場、だんご屋
八百屋、床屋、甘味喫茶
駄菓子屋、肉屋、経師屋
葬儀屋、拝み屋、自転車屋・・・
活気に満ちていた。
今は昔のこと・・・・
それでも城下町の面影を色濃く
残した町の魅力を紹介したい。
マップを手に町の歴史を
訪ねて欲しい。

現在

昭和40年代までの鷹匠町には
門構えの侍屋敷が複数あった。
（この門はご近所・小寺さんの門だった）

## 発見！ 鷹匠町がグルメの町に？ 高級鮨、ビストロ、ラーメン、居酒屋・・・！

「館林城下町だより」は地元の個人商店を応援する使命がある。（勝手にやっているだけ・・・）
昨年、肴町の中野肉店が閉店、堅町の天ぷら栄も閉店。他のお店も後継者を考えると暗くなる。
いつの間にか、グルメの個人経営店が多く残っているのが鷹匠町だ。
［提案］旧市場（江戸時代は堀）を公共の駐車場として整備して欲しい。鷹匠町の発展に繋がるはず。

ラーメン
森田屋支店

ごろごろサラダ
スギエ

ランチ・前菜
西ノ洞

和牛ステーキ
タブレ

クレープ
ベルボア

みそーメン
月ヶ瀬

シソカツ
身延

ラーメン
自慢邸

撮影()2020年2月～3月：田中茂雄

コラム

## 鷹匠町を輝かせているのは『ロートルメゾン西ノ洞』のおかげ。

昼はおいしいレストラン。夜はJazzのライブハウスにもなる『西ノ洞』、館林の文化度をいっきに引き上げている名店だ。敷地内にクレープの『ベルボア』、人気のビストロ『タブレ』もある。(開業は1985年頃、歴史ある)
オーナーは昭和の鷹匠町/大名小路を支えた川生医院のお嬢さんだ。町の名医としてお世話になった人は多い。私もそのひとり。
特筆すべきは建築だ。著名なTeam ZOO アトリエ・モビルの丸山欣也氏設計。1981年、建築学会賞を受賞した名作「名護市庁舎(沖縄)」で象設計集団との協働設計者でもある。
館林の景観に根ざした建物は年数を重ね、ますます輝いている。設計とオーナーの管理のたまものだ。
注)象設計集団は1970年代から活躍。風土に根ざした建築素材を用い、景観に調和し、照明や家具など細部にもこだわったオリジナル作品を使用する。その考えは時代を先取りしていた。
西ノ洞の家具や照明などのディテールをぜひ味わって欲しい。(田中)

[フレンチ/Jazz/Live] L'AUTRE MAISON 西ノ洞

L'AUTRE MAISONとはフランス語で「もうひとつの家」、音楽と食事を素晴らしい空間に包まれながら楽しめる。

■大手町6-41　■TEL:0276-75-1560

【ビストロ タブレ】
西ノ洞ガーデンの一角に落ち着いたビストロがある。ワインと仏料理を楽しめる。営業は通常の夜のみ。



コラム

## 昭和の鷹匠町は映画の街だった!?

「館林キネマ」は片町、「大映」と「清流」は鷹匠町だ。キネマは松竹系の映画を、大映は大映・東宝系を、清流は洋画を上映していた。
同じ町内なので、最新作ポスター、スチル写真、職人が描く大看板を見て育った。
映画が娯楽の王様だった昭和30年代、黒沢映画や東宝喜劇(館林を舞台した「駅前茶釜(昭和38)」も上映された)、植木等の無責任シリーズ・・・等々楽しんだ。
お隣の清流では「ベンハー」の迫力に驚き、「007シリーズ」に夢中になった。高校生になると仏映画「冒険者たち」に出会う!
田舎町に暮らす少年にとって映画は世界を垣間見る窓であった。(田中)

鷹匠町映画街(昭和30年〜40年代)

### 「大映劇場」の前身「冨貴座」とは?

昭和4年4月、上毛モスリン従業員の娯楽のために家富忠三郎氏により劇場(芝居用)がたてられた。(4P参照)
敷地内の南西端に冨貴座「15周年記念石碑」があり裏面に設立目的や経緯が詳しく刻まれている。石碑は大正14年建立。

冨貴座は昭和24年、映画常設館「大映劇場」と改称。映画以外に北島三郎ショーなどの歌謡公演を観た記憶がある。

### 町の歴史を再生させる新しいこころみ「SORANOMONシアター」

館林が取り組むリノベーションスクールから始まった企画。長屋門と広場(旧・清流/大映跡地)を利用して野外映画の上映を行う。「交流の場」「カルチャー発信の場」をめざし、2019年にスタートした。期待したい。
代表:石川京子

2019年4月のイベント写真

## News　盛り上げよう!日本遺産「館林の里沼」広報デザイン活動が大切だ!

[協力:館林城の再建をめざす会]

### ❶ 2月、「日本遺産・プレート」デザイン制作!

「館林の里沼」を構成する文化財活用施設11ヶ所に設置する標示プレートを制作。
格調高くシンプルで、しかも必要な情報をわかりやすく伝える。館林の特産品・麦の穂でリース模様をデザインした。(田中)

### ❷ 3月、「日本遺産・案内板」館林駅東口に設置!

2019年5月、館林の「里沼」が日本遺産と認定された。「里沼」という造語を切り口にした館林の歴史・文化ストーリーが高く評価された。
駅前案内板の目的として、「日本遺産・里沼」の紹介。そして「里沼」文化を体験できるエリア・スポットの案内(地図とリスト)。
それぞれの目的にそった案内板をふたつデザインした。(田中)

館林駅東口歩道に建てられた案内板(2020年3月完成)

### ❸「日本遺産・映像作品」

〜3つの里沼をめぐる 人と沼の伝説〜
つつじ映像学習館(新コロナ感染防止で休館中)

館林城CG画像提供とアドバイス

映像作品で「里沼」紹介する企画。なんと映像は一部4D(体感型映像)なのだ。城を守る城沼のシーンで4Dに加工された城が動画で紹介される。楽しみだ。
長年研究した館林城のデータを映像制作チームに提供した。(田中)

この画像が動画となる。素晴らしい!

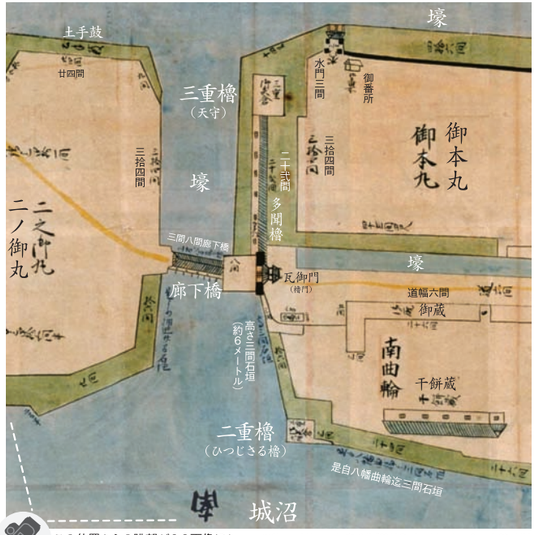
「館林城の再建をめざす会」が昨年11月に研究発表した館林城CG画像。
本丸三重櫓の寸法と同サイズの櫓を探し出した。それは名古屋城西北隅櫓だ。詳細は次のページ

[館林城郭研究]（黄金期・徳川綱吉時代）

# 館林城最高の景観を完成させた！ ベストビューポイントをＣＧ画像で制作！

綱吉時代の絵図面を読み解くと、天守である三重櫓、
4つの二重櫓（隅櫓）、櫓門、廊下橋、多聞櫓、太鼓橋・・・
多くの城郭建築が描かれている。（寸法も記されている）
しかも、城沼に面する曲輪は高石垣（高さ6m）で守られていた。
水面に浮かぶ美しい城のベストな眺望をお見せしよう。
城沼南西からみた館林城だ。

註）徳川の城は戦の道具として合理的に造られている。（様式を統一）
　館林城は江戸城をはじめ名古屋城などの徳川の城と兄弟といえる。




この位置からの眺望がＣＧ画像に！

※絵図・寸法図は綱吉時代「館林御城図」（国立国会図書館所蔵）

※城郭建築の1間は京間なので1間＝6尺5寸（約197cm）

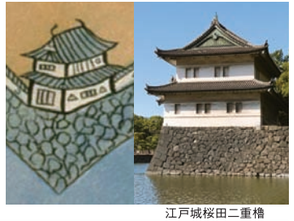
## 三重櫓（天守）（7間×8間）

館林城三重櫓のサイズは7間8間。このサイズで現存する櫓をついに見つけた。名古屋城西北隅櫓（重要文化財）だ。1619年に完成した三階建て三重櫓は全国最大級である。館林城と同じ徳川様式の櫓だ。
（三重櫓で最大は熊本城宇土櫓だが中は6階建て）

名古屋城西北三重櫓

## 二重櫓（坤櫓）（5間×6間）

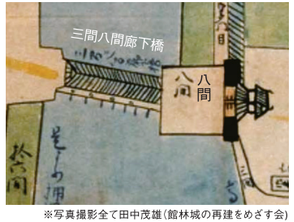
館林城坤（ひつじさる／西南）櫓のサイズは5間×6間。写真は江戸城桜田二重櫓（巽櫓）のサイズは同サイズ。しかも館林城の石垣高と同規模。
館林城石垣を施工したのは江戸の石工である。館林城二重櫓も本瓦葺、塗籠造の櫓と考えられる。



江戸城桜田二重櫓

## 廊下橋（3間×8間）

二の丸から南曲輪へ架けられた橋は、壁と屋根に守られた廊下橋。規模も大きい。（間口3間、奥行8間）




※写真撮影全て田中茂雄（館林城の再建をめざす会）

「館林城・綱吉時代　南からの景観」著作：©館林城の再建をめざす会　画像制作：田中茂雄 2020

## レポート① 城下町に残された文化遺産を活用し町の魅力をアップします！

企画：館林城の再建をめざす会

### ミニタウン誌『館林城下町だより』を創刊2号！

～日光脇往還特集～9月26日発行（1000部制作）。

城下町「館林」の歴史を伝える旧町名を積極的に使い、町の魅力を発掘する企画。昨年2月に創刊した。（年2回発行）創刊2号のテーマは「日光脇往還」だ。道路拡張が決定し実行に移す前に歴史ある日光脇往還の景観を記録するため、特集とした。

今年になり、消失した建築が数棟ある。（小室商店の貴重な蔵を解体前に写真に納めた）全国でも貴重な城下町の景観を失う価値が道路拡張にあるとは思えない。とても残念。（田中）

←表紙

↓［日光脇往還マップ］

読売新聞記事
2019年10月29日

（第3種郵便物認可）　2019年（令和元年）10月29日（火曜日）　読売

# 館林のメイン街道「日光脇往還」

## 街の姿 冊子に残す

かつて城下町として栄えた館林市のメイン街道、日光脇往還の街並みを紹介する冊子＝写真＝が完成し、周辺の店舗で配布が始まった。街道では早ければ来年度にも拡幅工事が始まり、相当の貴重な建築物もその多くが取り壊される。冊子には江戸時代から続く貴重な景観を記録にとどめる狙いもある。

この冊子は「館林城下町だより」で、同市出身のデザイナー田中茂雄さん（67）が1000部を発行した。オルカラー舎印刷で、街道沿いに町家が集中していたことがわかる明治時代の絵図や、昭和の香りが漂う現在の店舗の外観や商品の写真を載せた。

日光脇往還は江戸時代、徳川家康を祭った日光（栃木県）を参拝するために多くの大名が行き交った。館林では城下町の中央を南北に貫く約1キロの区間に商家や民家が立ち並んだ。14メートル程度の道幅は当時と変わらず、所々に残る町家が情緒を醸し出している。

さらに昭和30年代までは続ける個人店舗もある。

街道は現在、片側一車線の県道になっているが歩道はない。歩行者や自転車の安全を確保するために、県が事業費45億円をかけて幅を約2メートルに広げて歩道を設けることになり、用地買収も進んでいる。

たった田中さんの聞き取り調査によると、今回の拡幅工事を機に代々営業してきた店を閉店するところが多いという。「多くの人に親しまれた街の姿を形として残しておきたい」と冊子の発行を思い立った。

田中さんは「個人的には残念だが、事業計画が動き出した以上は仕方がない。冊子を手に今一度、歴史ある街道を歩いてみてほしい」と話している。

配布は「聞繁堂書店（本町）」を中心に行い、配布料は100円。問い合わせは田中さん（080・4406・1600）へ。

## 来年度 県道拡幅工事



読売新聞の記者が素晴らしい記事を書いてくれた。町の景観も記録された。



## レポート② 企画：菊竹清訓設計館林市庁舎保存活動

### 菊竹清訓設計・旧館林市庁舎屋上屋根一部修理！

歴史的建築・館林市庁舎（現・中部公民館）の保存活動

東京オリンピックの前年、昭和38年（1963）に建てられた市庁舎。近代モダニズム建築の名作と多くの建築家から評価されている。現在中部公民館として大切に使われいる。

朗報！！ 今年度、屋上部分が一部修繕された。屋上は痛みやすい箇所だけに必要とされた修理だ。文化財を守る意志の表れ、館林市の決断が素晴らしい。（田中）

今回は四分の一のみ修繕！

世界的な文化遺産だ！

世界初のトイレのピクトグラムは田中一光がデザインした館林市庁舎！

1963年　館林市庁舎
トイレ　ピクトグラム
デザイン：田中一光

［建築ガイド］改訂版

2019年7月改訂版制作・配布。
2017年9月発行した館林市庁舎の建築資料の在庫が無くなり緊急制作。（A4サイズ16P）

## レポート③ 企画：優風館

### 館林のこども達を元気にする活動。その成果！

優風館空手道場

館林を元気にしたいと始めた活動がふたつある。

歴史遺産を活かし町を元気にさせるのが「館林城の再建をめざす会」。

もうひとつは、館林の将来をになう子供たちを元気にするための武道教育「空手道場」だ。ともに重要な活動。

安全に伸び伸びと稽古できる充実した環境が必要と考え道場を建てた。本部道場を始め優秀な指導者による最善の空手教育を実践している。

その成果が表れてきた。（田中）

# 優風館勢6部門

空手

久金成（子右館北原俊成）（同）▽同中学年（①野中康士（優風館）②飯塚理希（優風館）③笠原義一（同）機早年（子右館）▽同高学年（①中山栞大（子右館）②高橋一晴（玄武館館林）③高橋一晴（玄武館館林）▽中学生（①田中茂雄（子右館）②横山侑斗（玄武館館林